

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	売掛金
繰越商品	貸付金	前払金	未収入金
仮払金	建物	備品	減価償却累計額
買掛金	前受金	借入金	未払金
仮受金	繰越利益剰余金	受取利息	固定資産売却益
支払地代	支払利息	固定資産売却損	損益

- 2X01年8月15日に取得した備品（取得原価¥432,000、耐用年数6年、残存価額ゼロ）が不要になったため、2X05年4月1日に¥170,000で売却し、売却代金は小切手を受け入れた。減価償却費は定額法で計算し、記帳は間接法を用いている。なお、当社の決算日は3月31日であり、減価償却費は月割りで計算する。
- 以前、出張中の社員から当座預金口座に振り込みがあった¥5,000について、その詳細が不明であったため仮受金として処理していたが、本日、得意先飯田商事からの商品代金の内金であることが判明した。ただし、飯田商事に対してはすでに商品¥60,000を販売しており、全額を売掛金として処理している。
- 取引銀行から借り入れていた¥1,460,000の支払期日が到来したため、元金および借入金にかかる利息（利率：年3%、借入期間：150日、計算方法：1年を365日とする日割計算）を普通預金から返済した。
- 土地の賃貸契約を締結し、当月分の代金¥105,000を当座預金から振り替えた。同時に、当該土地の上に簡易プレハブ事務所を設置し、建設代金¥1,000,000は翌月末に支払うこととした。
- 損益勘定の記録によると、当期の収益総額は¥3,250,000で、費用総額は¥5,200,000であった。したがって、この差額を適切な勘定へ振り替える。

第2問 (10点)

阿蘇株式会社（決算年1回）のX2年度（X2年4月1日からX3年3月31日）における、家賃に関する勘定記入は次のとおりであった。【勘定記入内容】と【その他備考】にもとづいて、空欄①～⑤にあてはまる適切な語句または金額を答案用紙に記入しなさい。

【勘定記入内容】（単位：円）

(①) 家賃		(②) 家賃	
4/1 () (③)	3/31 () ()	4/1 前期繰越 ()	4/1 () ()
8/1 当座預金 ()	3/31 損益 (④)	3/31 () ()	3/31 次期繰越 (⑤)
2/1 当座預金 ()		424,620	424,620
()	()		

【その他備考】

- 前期以前から賃貸借契約を結んでおり、X2年8月～X3年7月までの家賃は、X1年8月～X2年7月までの家賃の1割増しである。
- 各日付の家賃は、次の期間に対する分であり、前期も同じである。
8月1日の家賃：8月～1月まで
2月1日の家賃：2月～7月まで
- 期首の再振替処理等は、適切に行われている。

第3問 (28点)

答案用紙の残高試算表の記入と、[X9年2月中の取引要約]にもとづいて、答案用紙の残高試算表の空欄を埋め、完成しなさい。なお、資料から判明する事項以外を考慮する必要はない。

[X9年2月中の取引要約]

- (1) 総売上高：掛売上高 ¥1,800,000 手付金充当高 ¥25,000
- (2) 総仕入高：掛仕入高 ¥ 450,000 手付金充当高 ¥45,000
- (3) 手付金の支払いと受取りは、宇土銀行の当座預金口座で行っている。
- (4) 営業費（宇土銀行の当座預金口座で決済した。小口現金からの支出分は含んでいない。）
給料 ¥320,000 支払手数料 ¥127,000 通信費 ¥160,000 水道光熱費 ¥140,000
（注）給料は2月分の所得税預り金¥7,800控除後の金額である。なお、1月分の所得税預り金は宇土銀行の当座預金口座から納付した。
- (5) 小口現金支払額（月末に宇土銀行の当座預金口座から同額を補給した）
支払手数料 ¥23,000 消耗品費 ¥33,000 雑費 ¥55,000
- (6) 売掛金・電子記録債権の決済額等
売掛金 当座預金回収高 ¥1,620,000 電子記録債権振替高 ¥270,000
電子記録債権 当座預金回収高 ¥ 360,000
（注）売掛金は宇土銀行、電子記録債権は天草銀行の当座預金口座で決済している。
- (7) 買掛金・電子記録債務の決済額等
買掛金 当座預金支払高 ¥250,000 電子記録債務振替高 ¥320,000
電子記録債務 当座預金支払高 ¥544,000
（注）買掛金は宇土銀行、電子記録債務は天草銀行の当座預金口座で決済している。
- (8) 貸倒高：売掛金 ¥3,000

第4問 (14点)

次の文章の（ア）から（キ）にあてはまる最も適切な語句を【語群】から選択し、番号で応えなさい。

1. 貸倒引当金は受取手形や売掛金などに対する（ア）勘定である。
2. 補助簿は（イ）と（ウ）に分類される。（イ）には現金出納帳、仕入帳・売上帳、受取手形記入帳・支払手形記入帳などがあり、（ウ）には、商品有高帳や売掛金元帳・買掛金元帳などがある。
3. すでに取得済みの有形固定資産の修理、改良などのために支出した金額のうち、その有形固定資産の使用可能期間を延長または価値を増加させる部分を（エ）支出という。
4. 財務諸表のうち、一定期間における企業の経営成績を表したものを（オ）といい、一定時点における企業の財政状態を表した財務諸表を（カ）という。
5. 仮受消費税と仮払消費税との差額は、納付すべき消費税として（キ）勘定で処理する。

[語群]

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|----------|
| ① 主要簿 | ② 資本的 | ③ 収益的 | ④ 負債 | ⑤ 未払法人税等 |
| ⑥ 仕訳帳 | ⑦ 総勘定元帳 | ⑧ 資産 | ⑨ 補助元帳 | ⑩ 損益計算書 |
| ⑪ 補助記入帳 | ⑫ 評価 | ⑬ 未払消費税 | ⑭ 貸借対照表 | ⑮ 修繕費 |

第5問 (28点)

次の決算整理前残高試算表および決算整理事項等にもとづいて、答案用紙に示した貸借対照表および損益計算書を完成しなさい。なお、当期は2X19年4月1日から2X20年3月31日までの1年間である。

(1)

決算整理前残高試算表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
804,000	現 金	
1,080,000	普 通 預 金	
880,000	売 掛 金	
310,500	仮 払 消 費 税	
420,000	繰 越 商 品	
?	建 物	
1,413,600	備 品	
8,000,000	土 地	
	買 掛 金	445,000
	借 入 金	?
	仮 受 金	407,000
	仮 受 消 費 税	890,000
	貸 倒 引 当 金	2,400
	建物減価償却累計額	7,200,000
	備品減価償却累計額	607,200
	資 本 金	?
	繰越利益剰余金	506,900
	売 上	6,141,500
3,000,000	仕 入	
1,657,800	給 料	
35,000	支 払 手 数 料	
108,000	租 税 公 課	
120,000	支 払 利 息	
171,100	そ の 他 費 用	
?		?

(2) 決算整理事項等

- 仮受金のうち¥7,000は、得意先からの売掛金(前期に償却済)の振り込みであることが判明した。
- 売掛金の期末残高に対して貸倒引当金を差額補充法により2%設定する。
- 期末商品棚卸高は¥350,000である。
- 有形固定資産について、次の要領で定額法により減価償却を行う。
建物：耐用年数25年 残存価額ゼロ
備品：耐用年数6年 残存価額ゼロ
(注) 決算整理前残高試算表の建物はすべて2X04年4月1日に取得したものである。
(注) 備品のうち¥597,600(期首減価償却累計額¥199,200)について、2X19年11月30日に売却を行ったが、売却代金を仮受金として処理している以外は未処理である。
- 消費税の処理(税抜方式)を行う。
- 租税公課勘定には収入印紙の購入代金¥56,000が含まれるが、うち¥23,000は未使用であるため、資産計上する。
- 借入金は当期の9月1日に期間1年、利率年4%で借り入れたものであり、借入時にすべての利息を差し引いた残額を受け取った。利息は月割計算により適切に処理する。
なお、決算整理前残高試算表の借入金、支払利息はこの借入時に生じたものである。
- 未払法人税等¥200,000を計上する。なお、当期に中間納付はしていない。